

電子書籍としてのPDF

今年の4月にApple社よりiPadが発売されて以来、電子書籍に対する関心が高まっているようです。電子書籍とは、紙に印刷された出版物ではなく電子端末のディスプレイで閲覧する出版物を指すのだと思いますが、そのフォーマットは様々な種類があります。

PDFは古くから電子書籍のフォーマットとして利用されてきました。PDFは、閲覧環境に依存せずに制作したレイアウト体裁を伝えるのに有効なフォーマットで、このような汎用性とレイアウト再現性の高さから印刷用のデータフォーマットとしても活用されています。

そのPDFに対し、最近ではEPUBというフォーマットも注目されています。

EPUBというフォーマットは、様々なデバイスごとに体裁を整えてレイアウトし直すもので、文字の大きさを変えればレイアウトを単純に拡大するのではなく設定した文字の大きさに合わせてレイアウトも整え直して表示するフォーマットです。

EPUBは、XHTMLをベースにしていますので、ブラウザでwebサイトを閲覧する際にウィンドウの大きさを変えたり表示文字の大きさを変えるとレイアウトが変わるのに良く似ています。

また、PDFにはポートフォリオと呼ばれる様々なデータをPDFフォーマットで束ね表紙などを加えて一つのコンテンツとしてまとめる機能があります

し、音声や映像データなどのデータを加えたりプレゼンテーション用のスライドショーの様に表示することも可能ですので、様々な方法で情報を伝達することができます。

印刷用データ制作に使われているページレイアウトソフトであるAdobe InDesignの最新バージョンはCS5ですが、このAdobe InDesign CS5（以下、InDesign CS5）には従来のPDF書き出しに加えてインタラクティブPDFに書き出すという機能が追加されています。また、InDesign CS4からはEPUB形式での書き出しも可能になっています。

今回は、このインタラクティブPDFの書き出しとInDesign CS5からのEPUB形式での書き出しについて見ていきたいと思います。

InDesign CS5からインタラクティブPDFに書き出すには「ファイル」メニューから「書き出し」を選択します。（図1）

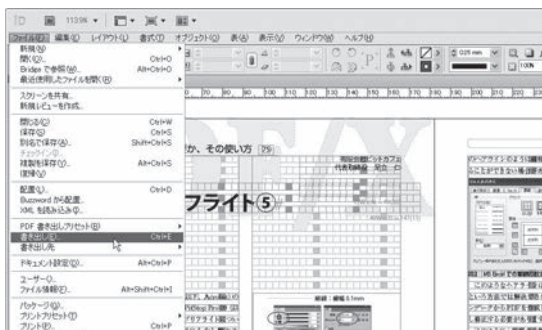


図1 PDFの書き出し

次に、保存先を指定するウィンドウが表示されますので、保存場所を指定してファイル名を入力し、ファイルの種類は「Adobe PDF(インタラクティブ)」を選択します。(図2)

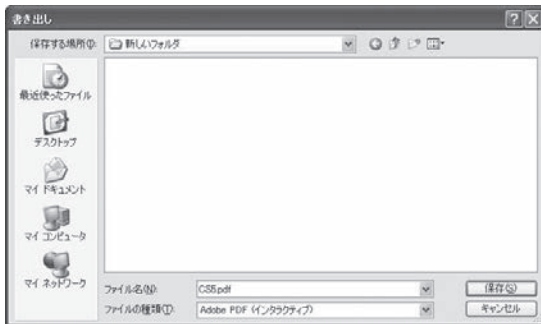


図2 インタラクティブ PDF の書き出し

インタラクティブ PDF の設定をするウィンドウが表示されたら必要な項目を設定し、「保存」ボタンをクリックするとPDFが作成されます。(図3)

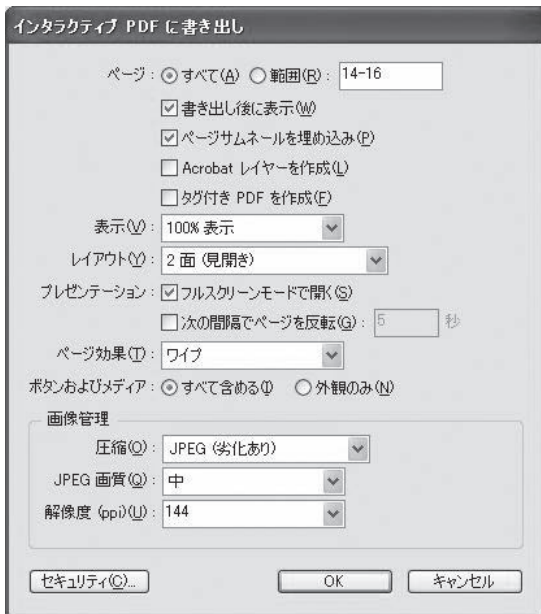


図3 インタラクティブ PDF の書き出し設定

今回は「表示」の設定を[100%表示]に、「レイアウト」を[2面(見開き)]に、「フルスクリーンモードで開く」にチェックを入れましたので、書き出されたPDFを開くとフルスクリーンで100%の見開きで表示されます。(図4)

また、「ページ効果」は[ワイプ]に設定しましたので、ページを送ったり戻したりすると表示していたページをワイプしながら次のページが現れるように



図4 書き出した PDF の表示

表示されます。このような効果を付けたインタラクティブ PDF で書き出すことで、Flash ベースの電子書籍の様な PDF が簡単に作成できます。このように書き出したものも PDF ファイルですので Adobe Acrobat や Adobe Reader があればどの環境でも閲覧可能です。

次に InDesign CS5 からの EPUB 形式での書き出しについて見ていきましょう。

まず、「ファイル」メニューから「書き出し先」→「EPUB」を選択します。(図5)



図5 EPUB 形式の書き出し

次に、保存先を指定するウィンドウが表示されますので、保存場所を指定してファイル名を入力し、ファイルの種類は「EPUB」を選択し「保存」ボタンをクリックします。

続いて EPUB 形式での書き出しに関する設定をするウィンドウが表示されますので、必要な項目を設定し、「書き出し」ボタンをクリックすると EPUB 形

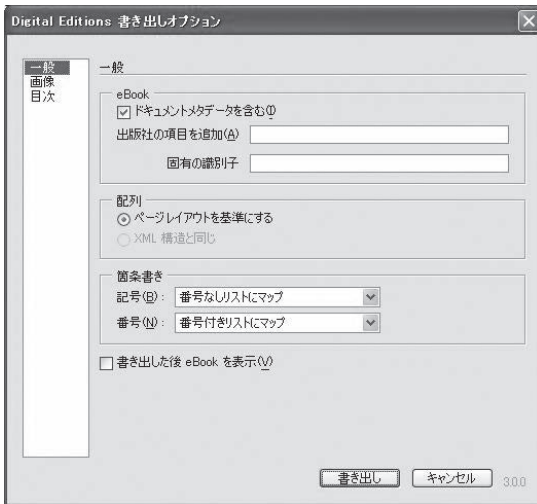


図6 書き出しオプションの設定画面

式で書き出されます。(図6)

書き出したEPUB形式のファイルは、Adobe Digital EditionsというPDFやXHTMLベースの電書館を閲覧、管理するアプリケーションで開いてみます。(図7)



図7 Adobe Digital Editions での表示

文字の大きさを変えてみると、設定した文字の大きさに合わせてレイアウトが変わっていることがわかります。(図8)

EPUB形式は日本語のレイアウトを行う上でまだまだ課題があるフォーマットです。元のデータのレイアウトの再現性を向上させるには、CSSを使ったレイアウトの制御など、EPUB形式で書き出した後に手を加える必要があります。また、今回使用したデータは2段組みですが、現状ではEPUB形式での

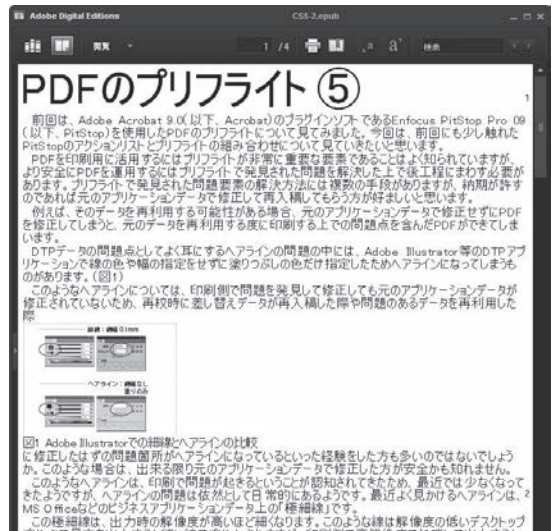


図8 文字の大きさ変更に伴うレイアウト可変

2段組みの再現は難しいようです。

このようなレイアウトを忠実に再現するPDFとEPUBに代表されるレイアウトをデバイスごとに可変させるフォーマットは、優劣を競うのではなく用途により使い分けられていくのだと思います。

EPUB形式のファイルは、iPadなどの各デバイス用の電子書籍閲覧アプリケーションでEPUB形式に対応しているものでも見ることができます。

今話題になっている電子書籍もPDFを印刷用に活用すると同様に、まず開いてみる、作ってみるところから始めると、わかってくることも多いのではないのでしょうか。

今回使用したソフトウェアの体験版は、アドビシステムズ株式会社のwebサイトで配布されていますので、是非一度試してみてください。

< 今回紹介したソフトウェア等 >

- ・ Adobe Acrobat 9 Pro 体験版のダウンロード
<http://www.adobe.com/jp/products/acrobatpro/tryout.html>
- ・ Adobe InDesign CS5 体験版のダウンロード
<https://www.adobe.com/cfusion/tdrc/index.cfm?product=indesign&loc=ja>
- ・ Adobe Digital Editions のダウンロード
<http://www.adobe.com/products/digitaleditions/>